

MaaS の政策・サービス動向に基づく個人情報利活用サービスの選好分析

○吉村瞭 (Ryo Yoshimura)

Keywords : MaaS、パーソナルデータ、重回帰分析、二項ロジットモデル回帰分析

1 目的

本研究の目的は、近年日本国内において実証実験が盛んに行われている MaaS における個人情報利活用サービスに対する選好を分析、評価することにある。MaaS の発展には個人情報の利活用が欠かせないため、利用者（情報主体）の個人情報利活用への反応が MaaS の発展に大きく影響する。本研究では、利用者にとって望ましいサービスを明らかにするための実証分析を行い、より受容性の高いサービスの設計、提供への貢献を試みた。

2 方法

本研究の調査方法は、架空のルート検索アプリを用いた設問を設定し、そのアプリに対する選好についてアンケートを実施した。架空のルート検索アプリは、（利用者の個人情報を使用しない）基本機能と（利用者の個人情報を使用する）3つの追加機能を用意した。3つの追加機能とは、目的地周辺の飲食店を提示してくれる機能、年代や身体状態に適したルートを提示してくれる機能、移動の目的や同伴する人数に適したルートを提示してくれる機能である。これらについて利用意向や支払意思額等の分析を行った。

3 結果

分析の結果、基本機能、基本機能+個人最適化、基本機能+目的最適化の3パターンにおいては利用したいと答えた回答者が過半数を超えた。また、この3パターンの支払意思額に対して、男性であればプラスに有意であり、仕事で公共交通機関（バスまたは鉄道）を使わない場合はマイナスに有意であることがわかった。さらに、基本機能+個人最適化の支払意思額に対して、個人情報が漏えいして不快に感じた経験がたいへんあることがマイナスに有意となった。

4 結論

本研究の結果、MaaS 分野の個人情報利活用サービスに関して、仕事で公共交通機関を利用する者や男性をターゲットとしたサービス展開が有効であることが示唆された。また、個人情報漏えいに関する過去の不快経験が、よりセンシティブな個人情報を提供する必要のあるサービスへの抵抗につながっていることもわかった。

【主要参考文献】

高崎晴夫(2018) 『プライバシーの経済学』勁草書房。

Matyas, Melinda and Kamargianni, Maria(2019) "Survey design for exploring demand for Mobility as a Service plans", *Transportation*, Vol.46, pp.1525-1558.